

整理番号 25-1
補助事業名 平成25年度 レーザ機器の安全・安心に関する調査研究 補助事業
補助事業者名 一般財団法人光産業技術振興協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

レーザ安全の国際標準化は、ISO規格も含めIEC/TC 76で審議・作成されており、我が国の国内規格であるJISは、IEC規格に沿って制定されている。しかし、現状ではISO/IEC規格として発行された全てがJIS化されているわけではなく、国内規格が完全に整備されているとはいえない。そこで本事業により、JIS整備の準備を整え、また、シンポジウムの開催によりレーザ安全の啓蒙を図る。

(2) 実施内容

平成25年度 レーザ機器の安全・安心に関する調査研究

<http://www.oitda.or.jp/main/one/044/optonews8614.pdf>

レーザの安全性の普及・啓蒙を図るための標準化国際シンポジウムを、「レーザ機器の安全・安心－安全の基本から、新たな応用へ－」をテーマに平成26年2月に大阪で開催した。また、海外規格から米国規格1件を選定してその附属書の和訳を行い、特に高出力レーザの安全な取扱いに関する調査を行った。また、レーザ機器の安全性に関する標準化等の国際動向の調査を行うため、平成26年3月に、IEC/TC 86/SC 86Cに参加し、光通信のレーザ安全性に関する国際規格を調査した。



シンポジウム会場風景



米国からの招聘講師



英国からの招聘講師

2 予想される事業実施効果

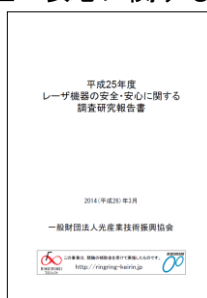
標準化国際シンポジウムでは、レーザ機器の安全の基本に関する講演によって、シンポジウムへの参加者が、レーザ機器の使用にあたって、特に眼の保護の重要性を再認識し、関連する安全・安心への取り組みを強化していくのに寄与したと考えられ、また、レーザ機器の新たな応用に関する講演によって、シンポジウムへの参加者の所属機関が、レーザ機器の新たな応用への可能性を再認識し、その開発にあたって関連する安全・安心への基本的な取り組みを怠らないことが重要であることを確認するのに寄与があったと考えられる。いずれの講演も参加者の好評を博し、レーザ安全性の普及・啓蒙に大いに効果があったと思われる。

翻訳した米国規格ANSI Z136.9-2013は、特に高出力レーザ関係でレーザ加工機の安全性に関するISO/IEC規格にない独自の規定が含まれており、今後のJIS化の検討において基礎的な一つとして大いに活用が期待される。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

平成25年度レーザ機器の安全・安心に関する調査研究報告書



(2)(1) 以外で当事業において作成したもの
なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 一般財団法人光産業技術振興協会

(ヒカリサンギョウギジュツシンコウキョウカイ)

住 所 : 〒112-0014

東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル7階

代 表 者 : 理事長 長榮 周作 (ナガエ シュウサク)

担当部署 : 開発部 標準化室 (カイハツブ ヒョウジュンカシツ)

担当者名 : 標準化室長 村田 健治 (ムラタ ケンジ)

電話番号 : 03-5225-6431

F A X : 03-5225-6435

E-mail : opt-st@oitda.or.jp

U R L : <http://www.oitda.or.jp/>